

令和初の青森県偕行会総会

青森県偕行会は、実りの秋を迎えた9

月21日、弘前市にある青森県護國神社において、令和元年度の総会を開催した。平成28年から英靈顕彰に相応しい護國神社で開催すべしとの決定により今年も同神社での開催となった。

今回も旧軍関係者は伊藤会長のもととなったものの、元幹部自衛官は、これまでで最多の15名の出席となった。

総会は、午前10時に同神社社務所大広間床の間の「国旗」に正対し国歌斉唱で始まった。

続いて、この一年間の当会会員物故者、60期田中誠治様、同松沢篤次様に対し黙祷を捧げた。

伊藤哲也会長仙幼49期が挨拶で、西住戦車隊長や若林大尉の活躍談を読んで幼年学校を志したこと、加藤隼戦闘隊長は明るい人で、戦闘機乗りの孤独を克服したこと、北支で戦犯の追及を受けた部隊長が現地人の証言で帰国できた話などを語った。

次いで、事務局長を議長として、議案の審議が始まった。先ず、昨年度議決事項の確認がなされた。

引き続き、昨年度の事業報告がなされた。昨年度は「弘前市での合同新年交歓会」「弘前公園での花見」及び「護國神社創建百五十年祭」の主要事業について報告された。特に、新年交歓会では県家族会及び県郷友会の会長は偕行会会員であり、弘前市の支部長等は全員偕行会会

員であること、花見では地元弘前駐屯地司令を迎えて21名で護國神社内苑で盛大に行い、昨年「偕行7月号付録花だより」に掲載されたこと、創建百五十年祭では、拝殿前に「英霊に敬意を」の垂れ幕と「偕行社の幟旗」を掲揚し、参拝者から感謝され、本年「偕行8月号本冊」に掲載されたことが報告された。

続いて10月10日に行われる「全国会長会同」での、課題提出資料に基づき「慰霊顕彰事業」「入会促進事業」「安全保障に関する情報発信と啓蒙事業」及び「陸上自衛隊に対する協力」について審議された。特に、「戦没者の慰霊・鎮魂」から「御英霊の名譽の回復・占領期間中から靖國の御英霊が受けた侮辱の払拭」へ発展させるべく議論された。

続いて「旧弘前偕行社改築後（公開後）の活用方針が紹介された。

令和2年3月22日（日・大安）には「旧弘前偕行社の落成式」が予定され、偕行社からは、志摩会長、森理事長、白石副理事長及び山越事務局長を来賓招待すべく関係者の考えも紹介された。

「旧弘前偕行社」は、極めて貴重な旧陸軍の遺産として、今後百年先まで存続継承され、偕行会行事での利用はじめ全国からの偕行社会員の見学案内に、偕行会としても最善を尽くすべく話し合われた。

最後の議案として「今後の事業計画

（案）」が審議された。

総会終了後、同神社拝殿前で「青森県偕行会旗」「青森県偕行会」の横断幕、偕行社理念の「英霊に敬意を」及び「日本に誇りを」の懸垂幕を背景に全員で写真撮影をした。

その後拝殿において全員により正式参拝を行い、29、183柱（昨年より1柱増）の御霊を慰霊顕彰した。

引き続き直会となった。会場は総会を行った社務所大広間で、同神社「創建150年記念事業」により改築が行われた新装の広間であった。

直会は献杯の発声で始まり、5カ月振りの交流の輪を広げた。5時間に及んだ総会、正式参拝、直会の最後には「海ゆ

かば」を高らかに歌い、来春の青森県護國神社での例大祭と引き続く弘前公園観桜会での再会を期して護國神社を後にした。

事務局長 稲村孝司陸自75期記

